２　めざす子ども像に向けた授業実践に関する考察

（１）　授業の構想

①　本単元は、地域に残る文化財である瑠璃光寺五重塔を保存・継承する取り組みについて追究する学習である。単元を通して以下のような３つの資質・能力を発揮した子どもの姿を意識して授業を構想した。

[本単元で３つの資質・能力を発揮した子どもの姿]
社会認識・・・瑠璃光寺五重塔の保存・継承に携わる人々の工夫や努力、人々の思いについて理解している子ども
学び方・・・・璃光寺五重塔を保存・継承する取り組みについて、仲間と協同的に学んでいる子ども
感性・・・・・瑠璃光寺五重塔の保存・継承について追究する中で、地域社会への誇りや愛情、地域社会の一員としての自覚をもとうとしている子ども

②　本単元で３つの資質・能力を発揮した子どもの姿へ導くための支援

ア　観光ボランティア、檜皮葺職人の方など、現在の瑠璃光寺五重塔の保存・継承に携わる人々から直接話を聞く場を設定する。そうすることで、保存・継承に携わる人々の工夫や努力について理解することができるようにする。

イ　瑠璃光寺五重塔を保存・継承する取り組みについて話し合う際には、保存・継承に携わる人々の取り組みの目的を問う。そうすることで、保存・継承に携わる人々の思いに着目して考えることができるようにする。

ウ　「瑠璃光寺五重塔を残すために大切なことは何か」を観点に振り返りを行い、考えを交流する場を設定する。そうすることで、保存・継承についての新しい視点に気付いたり、保存・継承に対する自分の思いを深めたりすることができるようにする。

③　目標

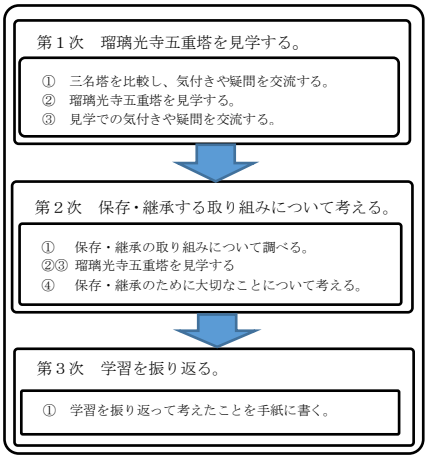
○　瑠璃光寺五重塔を保存・継承する取り組みについて調べることをとおして、保存・継承に携わる人々の工夫や努力について理解することができるようにする。

○　瑠璃光寺五重塔を保存・継承する意義や困難さについて話し合うことをとおして、地域社会への誇りや愛情をもち、地域社会の一員としての自覚を養うことができるようにする。

（２）学びの実際　※波線は求める子どもの姿、下線は支援との対応を表す。

単元の導入では、日本三名塔の写真を提示し、気付きや疑問を交流するよう促した。瑠璃光寺五重塔がどれかはすぐに分かる子どもは多かったが、瑠璃光寺五重塔の特徴やよさについて知らないという子どももいた。気付きや疑問を交流する中で、子どもたちは、実際に瑠璃光寺五重塔を見学したいという思いをもった。そこで、見学の際に観光ボランティアの方々に直接話を聞く場を設定した。**【支援ア】**話の中には、瑠璃光寺五重塔の保存・継承には、屋根の葺き替えをする檜皮葺職人さんが携わっていることや多くのお金がかかっているというものがあった。すると、子どもたちの中には「檜皮葺ってどのようなものなのだろう。」「瑠璃光寺五重塔を残すことは大変なことだと分かった。」とノートに記

指導計画（全 10 時間）



述する姿が見られた。瑠璃光寺五重塔の保存・継承に携わる人々から直接話を聞くことで、子どもたちは、保存・継承についての具体を捉え始めたのである。見学したことの気付きを交流する中で、子どもたちは作業の様子や保存・継承への思いについて、さらに調べたいという意欲をもった。そこで、再度瑠璃光寺五重塔を訪問し、檜皮葺職人さんから話を聞く場を設定した。**【支援ア】**

瑠璃光寺五重塔を見学する子どもたち

すると、子どもたちからは、「屋根の葺き替えは、すべてが手作業で大変な仕事だと分かった。」「錆びに強い竹の釘を正確に打ち込むことで修理した屋根が何年も耐えるしくみになっている。」「檜皮葺職人さんの数は全国的に少なく、技術を残すために苦労されている。」などの気付きが見られた。子どもたちは、檜皮葺の伝統的技術を実際に見たり、保存・継承の取り組みについて聞いたりすることで、檜皮葺職人さんの工夫や努力だけでなく、保存・継承の問題点に目を向け始めた。実際に檜皮葺職人さんとの話を聞く場を設定することで、子どもたちは瑠璃光寺五重塔の保存・継承の問題をより具体的に捉えることができたのである。

見学後の交流では、檜皮葺職人さんがとても大変な思いをしながら作業をしていることに子どもたちの気付きが集中した。そこで、保存・継承に携わる人々の取り組みの目的を問うた。**【支援イ】**子どもたちからは、「山口市民の宝である瑠璃光寺五重塔のよさを多くの人に知ってもらうため。」「昔から山口市民が大切に守り抜いてきたものだから、これからも受け継いでいくため。」といった気付きが生まれた。取り組みの目的を問うことで、子どもたちは保存・継承に携わる人々の思いに着目して考えることができるようになった。さらに、子どもたちは将来の瑠璃光寺五重塔について考え始めた。そこで本時では、これから瑠璃光寺五重塔を保存・継承していく問題やその解決策について話し合う場面を設定した。**【支援ウ】**その一部を以下に記す。

教師	瑠璃光寺五重塔を残すことがみんなの願いなのだね。では残すために大切なことは何だろう。
M児	保存にはたくさんお金がかかるから、募金などみんなで協力し合うといいと思います。
子ども	ぼくも同じようなことを書いたよ。（口々に）
O児	山口市民で協力してお金を出し合い、足りない分を県や市が負担すればいいのではないかな。
H児	そのためには瑠璃光寺五重塔のよさを伝えて、協力する人を増やすことが大切だと思います。
Y児	材料の不足という問題の解決には、森林をきちんと保護して檜を守るだけでなく、檜が残っている森林の情報を檜皮葺職人さんに確実に伝えることも大切なのではないかな。
S児	他にも、守る人たちの高齢化の問題もあるので、檜皮葺職人さん、観光ボランティアさん、市役所の方たちの中にも新しい人、若い人を集めていくことが大切だと思います。

S児の発言にも見られるように、子どもたちは瑠璃光寺五重塔の保存・継承の問題について交流することで、保存・継承に対する自分の思いを深めていった。市民による募金運動や森林保護、後継者募集、育成など、今までの交流で見られなかった保存・継承のための新しい視点に気付くことができた。また、交流の中で仲間の考えに共感し、保存・継承のへの自分の思いを自覚する子どももいた。

（３）実践を振り返って

瑠璃光寺五重塔の保存・継承に携わる人々の思いを考えることで、子どもたちはより具体的に問いを追究していった。単元の終末では、保存・継承に携わる人々への手紙を書く活動を行った。その中には、保存・継承の困難さ、尊敬の念、未来に向けた自分たちの関わりなどが表現してあった。しかし、郷土のよさや魅力、そしてよりよい社会のあり方についての理解を深めていくためには、文化財の保存・継承の学習のみではなく、社会認識を深める問いを生み出し、追究する実践を重ねていく必要がある。そうすることで、子どもたちの公民的資質の基礎を養っていきたいと考えている。